

平成 19 年 12 月 21 日

販売店各位

最新情報

# HOT！な情報報告

建通新聞にて、首都大学東京様の  
プロジェクトが紹介されました！

11 月 30 日（金）発行の「建通新聞」にて、首都大学東京様がプロデュースする、CO<sub>2</sub>排出量削減のプロジェクトが紹介されました。

11月16日の「HOTな情報報告！」でご紹介させて頂きました、名工建設株式会社様と首都大学東京様が共同で行った実験についても紹介されておりますので、今回の記事と併せ、改めて送付させて頂きます。

内容に付きましてご不明な点等ございましたら、お問合せ下さい。

※今後、この情報をメールでの受け取りをご希望の方は、[sistacoat@mwa.biglobe.ne.jp](mailto:sistacoat@mwa.biglobe.ne.jp)まで、「HOT！な情報メール受信希望」とメールをお願いします。次回からメール送信します。

株式会社日進産業

## 首都大学東京 産学官でCO<sub>2</sub>削減対策

「一般的な一戸建て住宅のCO<sub>2</sub>排出量なら約50%の削減が可能だ」。夏場は断熱効果、冬場は保温効果を持つセラミックを応用した建材の研究が首都大学東京システムデザイン学部の手で進められている。セラミック応用建材の研究は同学部が民間企業の協力を得て進める産学の共同プロジェクト。2008年度には東京都からの財政支援も受ける見通しで、産学官が連携して研究課題に取り組む。研究代表者の川上満幸システムデザイン学部長は「来年7月に開かれる洞爺湖サミットに成果の一部を報告したい」と自信を見せている。



貨物輸送コンテナを使って行われた実験では、コンテナの全面にセラミック塗料を施すことで、通常のコンテナ



「3年以内に試作品を開発したい」と話す首都大学東京の川上満幸システムデザイン学部長

れているため、航空機・船舶・自動車などへの利用はもちろん「将来は衣類への利用も考えている」（川上満幸）。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、名工建設など建設関連企業も研究メンバーに名を連ねる。20年度までにCO<sub>2</sub>排出量25%削減（2000年比）を目指すことも、セラミック応用建材の研究を後押しする考えだ。都環境局は08年度予算に1億0700万円を要求しており、研究費の補助で首都大学東京の取り組みを支援する。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。」

# セラミック応用建材の研究開発 CO<sub>2</sub>排出量「半減も可能」

一戸建て

セラミック系材料を能く高反射塗料のように応用した建築材料は、塗布式の断熱塗料として住宅、マンション、オフィスビルなどに、の建築物に導入が可

能く高反射塗料のよう。首都大学東京では、これまでの実証実験で、セラミック塗料が持つ優れた断熱・保温効果を実証済み。

ナと比べて最高16・8度の低減効果があった。さらに、集合住宅で行われた実証実験でも効果が証明された。26

度に空調設定された二つの住宅を比較すると、室内温度は外気温と最大2・06度マ

セラミック応用の材料は建築用にとどまらず、他分野への汎用性が高いのが特徴だ。そもそも、宇宙ロケットの断熱材技術が応用さ

デザイン学部長）。実証実験には首都大学東京の求めに応じた民間企業も参画している。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。」

都大学東京では今後、製品化に向けて新たな実証実験を開始する。ことし6月、モンゴル国立大学と国際交流協定を締結した同大では、モンゴルの遊牧民が住む「ゲル」に着目。このゲルにセラミック塗料を使用し、1年を通じた断熱・保温効果を検証する。

川上学部長は「3年以内に試作品の開発にこぎつきたい」と今後の研究を展望。共同研究に参加する民間企業も引き続き受け付けているという。